



第 425 号 平成 25 年 12 月 1 日  
発行所 京都市学校医会  
京都市中京区間之町通竹屋町下ル  
楠町 601-1 こどもみらい館 2 階  
TEL (075) 256-0351  
FAX (075) 241-3568  
発行人 奥村正治

## 第 63 回 全国学校保健研究大会 第 44 回 全国学校保健・学校医大会

会長 奥村正治

本年の全国の学校保健の会は、京都から遠い東北の秋田県で行なわれた。秋田県と言っても県庁所在地の秋田市で行なわれた。11月7日(木)・8日(金)が、第63回全国学校保健研究大会で、翌日の9日(土)が第44回全国学校保健・学校医大会の日程でありました。

前半の第63回全国学校保健研究大会は、文部科学省主催で行なわれた。主題は「生涯を通じて、心豊かにたくましく生きる力を育む健康教育の推進—健やかな心と体をつくり、健康・安全な生活を送るために主体的に行動できる子供の育成—」と題して進められた。

例年の事だが、1番目は午後1時より開会式、文部科学大臣表彰である。京都からは、京都市学校保健会の会長で、京都市学校薬剤師会の会長でもあられる原田敬子先生が表彰されました。又、京都府宇治市立伊勢田小学校の榎川米三先生が、学校歯科医の部で表彰され、学校医の部からは本年はありませんでした。

記念講演は、筑波大学教授 野津有司先生の「青少年の健康危険行動と防止教育」という講演であった。2001年と2011年に高校生1～3年生、約1万人(全国から無作為抽出)を全国調査され、危険行動①身体運動②食行動③喫煙④飲酒⑤薬物乱用⑥性的行動⑦交通安全上の行動⑧暴力・武器携帯⑨自傷行動の9行動32項目の調査をされた結果より、危険行動を防止するために、学校で何をどう学ばせるかを米国とのちがいも示され、「教材の見直し・開発」「指導力の開発」等々学校現場の先生方には大変役立つ講演であった。

翌8日には課題別研究協議会で、毎年のもですが、10課題に分かれ、京都からは「こどもの健康自立をめざした学校経営の進め方—望ましい生活習慣の形成に向けた組織的活動—」と題して、勸修小学校の前校長 市川雅也先生が、前任校の勸修小学校の遅刻や欠席が多かった登校意欲の低かった学校を健康教育を学校教育の基盤に据えて、生活習慣の改善を中心に、登校意欲を促進させて学校改革をなされた発表がありました。

8日午後は、ここ数年の動きですが、全国学校保健会中央大会が開催され、教育委員会の方々は、8日も丸一日缶詰状態でした。

後半の第44回全国学校保健・学校医大会は、日本医師会主催で行なわれた。主題は「子供は希望。未来の力」と題して進められた。

こちらは朝10時からの分科会が最初である。分科会の会場は5つに別れ、第1分科会は、こころ・予防接種・食物アレルギー、第2分科会は生活習慣、第3分科会は検診・運動器(第1～第3は内科系です)、第4分科会は耳鼻咽喉科、第5分科会は眼科である。

昼食の後、13時より開会式・日本医師会長表彰の後、14時よりシンポジウムである。テーマは「学校における感染症」という事で、基調講演は「インフルエンザ対策における学校の役割」と題して、東北大学大学院医学系研究科教授 押谷仁先生の話し、ひきつづき、大館市立総合病院の感染制御室長の高橋義博先生の「秋田県大館市の麻しん地域流行・新型インフルエンザを振り返って—麻しん流行と新型インフルエンザにおける学校閉鎖・出席停止対応の検証—」、前秋田県教育庁保健体育課指導主事の

村上まゆみ先生の「感染症情報収集システム（学校欠席者情報収集システム）の全県運用に向けて」、秋田県医師会常務理事の小泉ひろみ先生の「秋田県医学生麻しんワクチン高校プロジェクトの効果について」、秋田赤十字病院総合周産期母子医療センターの平野秀人先生の「秋田県における中学校および高等学校の性感染症への取り組みと秋田県医師会の行う性教育講座への要望」のシンポジウムであった。中でも、村上まゆみ先生の感染症情報システムの全県運用は、厚労省や保健所等で行なっているサーベイでも流れはつかめるのだが、又、府医師会の行なっているインフルエンザ発生報告も同様にインフルエンザの流れはつかめるが、校医としても一般の内科系の医師は、学校を中心に欠席者を病名別にインプットして行く方式で、感染症の流れをつかむのに非常に役立つと思われます。実は京都市教育委員会もよく似た方式のインプットをして、市教委に報告されている方式があるが（インフルエンザ）、個人情報と言う事で公開されていない。ここにも個人情報のカベが立ちはだかっています。

15時40分より特別講演。秋田大学学長の吉村昇先

生の「資源の獲得競争に負けない日本を―秋田から資源学の発信を―」と題して、秋田大学の改革の話や、秋田大学の歴史等が話された。むかし専門学校であった学校が国立大学になったのは、秋田大学を含め日本で2校しかない。又、秋田県の鉱山冶金が、約25%の全国産銅量を占める鉱山県であった事など、秋田大学の工学部のお話を中心に、医学部を除く、全学生が英語での講義や、全学生の海外留学が義務づけられているカリキュラムになっている事など教わりました。

翌11日(日)は京都に帰る日でしたが、せっかく東北の地まで来ましたので、少し強行でしたが、気仙沼、陸前高田へ足をのぼし、震災の現状を目に焼き付けて来ました。陸前高田市は津波で市全域が倒れ、私の目には京都の四条通、河原町通、御池通、烏丸通の一区画分ぐらいが全域建物なしの状態、車は所々動いておりますが、人影一人もおられないという様な状況です。ガンバリの一本松がほとんど一本だけそびえておりました（レプリカですけど）。住民の方々は周辺の山すその高台地の避難住宅にお住まいとの事でした。

---

## 第44回全国学校保健・学校医大会 第1分科会

福西小学校医 奥村正治

第1分科会は「ころ・予防接種・食物アレルギー」の演題の会場です。計10演題、発表7分、討論3分の計10分で1演題終了ですが、予定の10時～12時では終了せず、20分ほどオーバーして終了した。

10演題中、8題がころの話、他1題ずつが予防接種と食物アレルギーであった。多くの話の中、分科会会場の4/5の演題がころの話であり、最近の学校における課題が出ている様に思われた。

座長も、精神科担当の先生と、小児科の先生であった。

京都からは、昨年で5年間の時限立法「麻しん・風しんの予防接種 Ⅲ期・Ⅳ期」が終了し、医師派遣を学校医会が中心になり、Ⅲ期を4年間、京都市立中学校で集団接種を行ないましたので、好成绩の接種率でもあり、副反応の事も含め、まとめとして発表してまいりました。

---

## 第44回全国学校保健・学校医大会に参加して（第2分科会報告）

今熊野小学校医 長村吉朗

秋田市で開催されました第44回全国学校保健・学校医大会（第2分科会）の概要を報告いたします。  
第2分科会

座長 秋田県医師会学校保健委員会委員 木村 衛  
司会 大曲仙北医師会理事 吉村 総一

「からだ・ころ2」生活習慣

1. 秋田市小中学校肥満調査を20年継続してわかっ

- てきたこと 秋田県医師会 後藤 敦子
2. 若年者心疾患・生活習慣病対策協議会の学校保健活動 愛知県医師会 長嶋 正實
  3. 平塚市小学4年肥満児童の現状と対策 神奈川県医師会 梅沢 幸子
  4. 小学生から高校生にかけての追跡集団における生活習慣の変化と健康指標との関連 和歌山県医師会 中井 寛明
  5. 大阪府医師会学校医部会における生活習慣病対策事業と支援学校における肥満対策の実際 大阪府医師会 高谷 竜三
  6. 茨城県における小中学生の肥満児－10年間の推移－ 茨城県医師会 山脇 英範
  7. 岩手県における肥満対策について 岩手県医師会 山口 淑子
  8. 県医師会の学校保健委員会を通じた肥満対策の標準化の試み 山形県医師会 渡辺 眞史
  9. 富山市における小児生活習慣病予防検診

#### “すこやか検診”の現状と課題

富山県医師会 三川 正人

以上が当日の演題ですが、当日の交通事情のため第2演題より聞くことが出来ました。多くの発表の中で共通するものは、最近の10～20年を通じた検討で肥満傾向の児童の減少が認められており、生徒数の減少を考慮しても以前の2/3程度となってきた。学校での肥満対策はその努力に対し効果は十分ではなく、小学校以前からの対策が必要であり有効であることが示唆されました。

第2分科会が終了の後、第1分科会に移動しましたがちょうど奥村会長の1つ前の演題が発表中であり先生の発表を聞くことが出来ました。学校医会の多くの先生方のご協力により極めて高い接種率を達成することが出来ましたMRⅢ期の集団接種を終えての報告がなされました。今後新型インフルエンザ等の流行時の集団接種を考慮する際の1つのモデルになり得るのでは無いかと示唆されました。

## 第44回全国学校保健・学校医大会 第5分科会【眼科】に参加して

京都府眼科医会 柏井 真理子

今回の学校医大会 第5分科会（眼科）に参加させていただきました。11題の発表がありましたが、一番印象に残りました大阪府医師会・日本眼科医会理事の宮浦徹先生の御講演「学校保健と色覚検査－受診者に関する実態調査より－」の要約を記載いたします。

平成14年3月の学校保健法施行規則の省令改正により、それまで定期健康診断において小学校4年の児童に行われていた色覚検査が、平成15年以後全国のほとんどの学校で実施されなくなっている状況下、平成22年度と23年度の2年間にわたり、全国の657の眼科診療所に対して色覚受診者に関する実態調査を実施、計941例の症例が報告された。学校での色覚検査を受ける機会が減ったため、色覚異常であることを本人はじめ保護者・学校関係者が知ることができずそのために日常生活や学校生活また進学や就職等において様々な問題点が浮き彫りとなっていることを報告。

660例のエピソード報告があり具体例として

学校生活では

- ・8歳男 学校で色間違いをして先生に「ふざけてはダメ」と注意された。
- ・9歳男 黒板の赤いチョークの字を読み飛ばした。
- ・10歳男 色づかいが級友と違うことをからかわれた。
- ・17歳男 リトマス紙、地図の色が見にくい。

進学・就職に関して

- ・15歳男 工業高校入学後の健診で指摘され職業選択に不安を抱いた
- ・16歳男 美容専門学校希望だが、ヘアカラーが全く分からない。
- ・18歳男 鉄道会社の就職試験前日、学校で色覚検査を受けて初めて異常を知る。
- ・18歳男 消防の仕事を希望し、願書提出の際に検査があり異常を指摘された。

などの具体例を示し、現在の全国の多くの学校では積極的に色覚検査が実施されていないことに伴い、学校現場で色覚異常についての認識が薄れ、色覚バ

リアフリーが浸透していない現状を報告、またこの10年間で教職員も大幅に入れ替わり、色覚についての十分知識のない教師も増えており、男子生徒20人に対して1人は存在する色覚異常（一学級におよそ1人は在籍していることになる）に対して適切な配慮がなされていないため生じる、様々の色覚の諸問題が報告された。また就職を控え、採用試験で初めて自分の色覚異常を知るなど数多くの深刻な問題が報告された。

最後に小学校では希望者に対する色覚検査実施と中学校での進路指導における任意の色覚検査の必要性を、また学校現場における色覚についての理解・啓発の重要性を強調し講演を終えられた。

現在、京都府眼科学校医会では京都市立学校の児童生徒の希望者に対しては学校での養護教諭による色覚検査実施の方向で積極的に働きかけており、また色覚異常を指摘された児童生徒に対しては京都市教育委員会・京都市学校医会のご理解・ご協力のもと『色覚相談事業』を実施しており、本人、保護者をはじめ学校関係者に対して事後措置や色覚啓発を行っております。

これからも京都府眼科医会は児童生徒のために色覚相談を始め学校現場における更なる色覚啓発を積極的に取り組んで行きたいと考えております

皆様ご理解・ご協力どうぞよろしくお願い申し上げます。

---

---

## 第7回 常任理事会

---

---

平成25年12月7日  
於：事務局

**出席者** 奥村会長、林・竹内副会長、井本専務理事、杉本・山内・安野各常任理事、佐野眼科学校医会副会長、鈴木耳鼻咽喉科専門医会理事、長村監事

### ・会長挨拶

### <報告事項>

1. 第63回 全国学校保健研究大会 11/7, 11/8  
秋田市
2. 第44回 全国学校保健・学校医大会 11/9  
秋田市
3. 第13回 京都「こどもの心とからだ」教育講演会  
11/9 於：メルパルク京都 山内出席
4. 色覚相談 11/12 (2名), 11/19 (2名),  
12/3 (1名)
5. 精神衛生研究会 11/14
6. 平成25年度 京都市学校保健会研究発表会並び  
に表彰式 於：京都市総合教育センター 11/16
7. 平成25年度 京都市学校保健関係者表彰祝賀会・  
懇親会 於：京都ロイヤルホテル&スパ 11/16

8. 平成25年度 京都市小学生駅伝競走記録会 12/1  
於：鴨川周回コース 奥村、十倉先生出務
9. 第17回 日本ワクチン学会学術集会  
11/30~12/1 津市

### <協議事項>

1. 第28回 京都市小学生「大文字駅伝」大会  
出務医について H26年 2/9  
出場校の校医を中心に編成
2. 第28回 京都市小学校「大文字駅伝」大会  
事前検診について 12/21, H26年 1/11
3. 校医・小児科医感染症講演会 座長について  
H26年 3/1 於：ANAクラウンプラザホテル京都 座長：井本
4. 新年会について H26年 1/11 於：れんらく船
5. 新任校医研修会について H26年 3/20  
於：こどもみらい館 講師と分担を確認
6. 仮決算について
7. その他

### <関連学会・各種協議>

1. 色覚相談 12/10, 12/17
2. 精神衛生研究会 12/12
3. 一般社団法人京都府歯科医師会 平成26年新年  
互礼会 H26年 1/8
4. 第8回 常任理事会兼新年会 H26年 1/11  
17:00 ~ 常任理事会,  
18:00 ~ 新年会 於：れんらく船